

これまでの検討会議における濁水の原因や対策に関する委員等からの意見の概要

今後、これらの意見等を踏まえて、具体的な取組の方針をまとめて来年1月開催予定の次回検討会議で報告いたします。

○検討会議でまとめられた長期の濁りの原因

【原因1】

高時川流域の地質は、風化すると泥に戻る性質がある泥岩であり、去年8月の豪雨により流域の広い範囲で大規模な侵食が起き、高時川本流の中下流の至るところに粘土、シルトといった細かい粒が堆積し、それらが雨のたびに巻き上げられるというもの。

【原因2】

大雨により川岸やスキー場跡地等の土砂がむき出しになっている場所や、森林の斜面が新たに侵食され、その一部が本川に流れてきて濁りを引き起こしているというもの。

○検討会議で提案・意見があった対策

【全般】

- ・広範囲に大量に濁りの原因になる粘土、シルトといった細かい粒が堆積しており、除去したり固定化するのは困難。
- ・出水後の濁りの継続時間は減少傾向にあり、自然の力で川に溜まったものが浄化されるのを待つしかないのでは。
- ・生き物への配慮を頭に浮かべながら、可能な発生源対策を行っていくべき。

【スキー場跡地での対策】

- ・裸地になっているところを緑化し、土砂流出を防ぐために、吹付をするなど知恵を絞って進めてほしい。
- ・ゲレンデ跡の作業道からの土砂流出を防ぐ。
- ・流下してくる土砂を溜め、安全に少しずつ流していく。
- ・昨年と同規模の豪雨が発生したときに備えて、抜本的な対策を早急に行う。

【流域支川等での対策】

- ・大音波谷川に、下流に土砂が流れて行かないように土砂を溜める堰堤を作る。
- ・崩れたまま放置されている斜面で大きな発生源になるところは、山脚固定して土砂が出てこないよう対策をすべき。
- ・雨が強く降ったときに表面が侵食され土砂が流出するので、植生マット等により緑化するといった対策が有効と思う。

【本流での対策】

- ・川岸で大規模な侵食が継続するおそれのある場所等について、かご工等による簡易護岸対策を検討すべきでは。
- ・下流部のアユ産卵床区間では、部分的に川底を耕して泥払いをすることも一定の効果を期待できると思われる。

【その他】

- ・杉野川の既設堰堤について、底抜けしている可能性があるのでは。